

## 政治学概論 II 2024 w3 (1 月 8 日) 授業の感想

| 氏名  | Q1                                       | Q2   |
|-----|--|--|
| 岩田  | パンデミックの状況であっても、世界の対応には各国の政治的な力が関係してくること。 | パンデミックが起きてしまった場合、世界中で協力して食い止めなくてはならないはずであるのに、実際にコロナの時は、「最初に感染が広がった中国が悪い」とか「うちの国には菌を入れたくないから飛行機を止める」など、それぞれの国が自分勝手な行動ばかりとっていたイメージであった。また、託摩さんの動画の中で、WHO は中立的な立場で支援を行う機関であるのにも関わらず、何か支援を行う際には結局は一定数の賛同を得る必要があるため、力を持った国が大きく影響するという点においても、保健機関と各国の政治状況を同じ土俵に上げるのはおかしいと感じた。たとえば、ロシアとウクライナが戦争をしていることによって、世界の中で対立が起きてしまい、それが WHO にも影響して一向に支援を行うことができないような状況に至ってしまったら、戦争に全く関係のない別件で困っている国までもが被害に遭ってしまう可能性もある。そのため、WHO が中立的な機関としての行動を行えるようにするために、各国は保健以外の私情を交えずに対応策について検討することのできるような場にする必要があると考える。 |
| 宇名手 | グローバリゼーションと独立運動について                      | グローバリゼーションによって異文化融合がなされる中で、地域のアイデンティティや文化を守ろうとし、地域の自治や独立を求める動きが強まるということが面白いと思ったから。また、「主権を持つ」ことに対して絶対的信頼を抱いているということも面白いと思った。  |
| 遠藤  | 主権について自らの秩序形成能力を過大評価しているという箇所が重要だと思った。   | 確かに自国の問題には自国で対応することは大切である。また、協調することで自国の利益を達成しにくいという意識も持ちがちである。しかし、自国の主権を持っていることと問題を解決できる能力があることは別のことであり、自分の国の外で自分の国に直結する問題になっていることについては特に既存の国際秩序のもとで協調していくことが必要になると感じたから。公衆衛生の点でも人類共通の問題として長期的な目で協調することが重要になると思ったから。   |
| 大石  | covid-19 と国家の力関係におもしろさを感じた。              | 私は、世界的に流行し始めた当初「ワクチンはいつできるのか」や「ワクチンを日本で作れないのか」などワクチンの動向に一喜一憂している状態だったと記憶している。その中で今の状態から俯瞰してみると、アメリカやイギリスなど世界的にみて日本と友好的な国力がある国からワクチンが供給されており、当時世界が混乱に陥っている状態だったからこそ政治的な位置を明確にみることで理解し、そこに面白さを感じたから。また、自分たちにとってはまだ生きている中で歴史的な出来事は少ない中、コロナウイルスは歴史的に重要な部分であり、生きていたからこそ実感しやすい部分が多くあるなと思ったから。  |
| 大久保 | 自治という考えかた                                | 日本は古代も近代も中央集権型の国家体制を敷いているし、日本列島の中で複数の国家が樹立したことがないので、他国での独立運動のことに关してどうして発生するのだろうかという疑問に思うことがあるが、グローバリゼーションの恩恵を得られなかったり、自身の思う通りにならないようになると自己決定権を求めて、独立運動が出るのかなと思った。  |

(continued)

| 氏名  | Q1                       | Q2  |
|-----|--------------------------|---|
| 片山  | 健康のところで、社会的要因はあまり対策されない点 | 医学的要因は、ワクチン打って病気を撃退など効果の検証がしやすく、資金も投入されやすいので、社会的要因を解決するよりはやり安いのだとは思う。しかし、中国やアフリカは良く、新しい感染症を出している印象で、いくら、人類が今ある感染症を制したところで、社会的要因を解決しない限り、無限ループになると思う。なので、かなり難しいと思うけど、社会的要因にメスを入れないといけないと思ったので  |
| 加藤  | 詫摩佳代さんの「公衆衛生と安全保障」に関する話  | 感染症の拡大や気候変動は、国境を越えて影響が広がる可能性があり、国家の安全保障に直接的な影響を与える可能性があると考え、重要な点だと感じたからである。例えば、COVID-19 のようなパンデミックや気温上昇は、健康危機を超えて社会の経済活動を停滞させ、国家間の協力や競争にも影響を与えるため、安全保障の問題と密接に結びついていると感じたからである。このようなことから、安全保障を国際社会の枠組みで捉えることが重要だと考えた。                              |
| 喜多川 | EU と欧州複合危機について           | EU を離脱する国がなぜ離脱するのか理由がいまいちわかっていなかったが、アイデンティティと連帯という項目で、EU 権限は増加しているが、そこにヨーロッパアイデンティティを伴っていないという説明から納得した部分があった。中国と台湾の対立のように、国民がどこにアイデンティティを持っているかという視点は、国同士の連帯を考える上で重要になると感じた。  |
| 黒田  | 難民の多くは隣国へ避難している点。        | 私は、アメリカなどの先進国が多くの難民を受け入れていると思っていたが、今回の授業で難民の多くは隣国へ避難していて、先進国ではない発展途上国が多くの難民を保持していることを知ったから。このことから、難民への支援の仕方として、紛争などが起きている国への支援だけではなく、難民を多く受け入れている隣国への金銭的・物資的支援も有効だなと思った。  |
| 黒田  | WHO と公私パートナーシップ          | 私は、今まで WHO は全ての国の中立に立っていて、どんな国の意見でもきちんと聞いて制度を作っている機関だと思っていたが、感染症予防のワクチンやより良い制度を作るためには莫大な費用が必要であるため、必然的にお金を沢山出資してくれる先進国や財団の意見が反映されやすいということを初めて知ったから。しかし、先進国の機嫌ばかり伺っているとその他の国からの重要な情報を取り逃したり、そのような国のためのプログラムを行うと先進国が反発したりして、国際的な連携は難しい状況にあることが分かった。 |
| 小松  | EU と欧州複合危機               | EU がドイツの力を封じ込めるという側面を持つということを知った。今回の講義では、独立や主権などといったテーマについて考えたが、EU の制度は独立などとは逆に中央政府への集権による束縛であると感じた。イギリスの EU 離脱はこのことが背景にあるのではないかと考えた。EU は越境的連帯が強調されるように感じるが、その裏ではアイデンティティの希薄などが課題としてあることを知った。   |

(continued)

| 氏名    | Q1  | Q2   |
|-------|---|--|
| 高橋    | WHO と公私パートナーシップの箇所が重要だと思った。                 | その理由は本来ならば中立性を担保しなければならない国際機関が出資国の意向に大きく左右されている現状に立たされているからである。費用対効果の重視により効果を実証しやすいプログラム中心となったことで、その即効性から世界全体で人々が健康に生きるとともに豊かな社会を実現することができているという錯覚に陥りやすくなったことが危惧される。だからこそまずは WHO への資金援助国が長期的な目で包括的な保健事業を推進していく見方に変革していくこと、そしてそもそも前提として WHO が揺るぎない権限を確立していけるよう仕組み自体を見直していくことが必要不可欠であると考えます。 |
| 田辺    | 犬塚元「スコットランド：英国史から見る住民投票」について                | 主権とは何かについて考える機会となったから。EU とイギリスは、連合と国といった違いがあるので、それぞれの主権の意味は異なる気がするようになっていた。そこで、EU からの離脱によって自らの主権を取り戻すイギリス、EU に主権を委ねようとするスコットランドの話があり、主権とは何かがよくわからなくなった。このことは、「主権の構成要件の乖離」やワードの不足が影響しているように感じ、当事国が何を主権と思っているのか理解することが大事だと考えた。   |
| 爲石（康） | 公衆衛生と安全保障                                   | 公衆衛生問題は過去を振り返っても大きな問題となっていた。近年問題になっていたコロナも例外ではない。これらの感染を左右してきたのは国際政治による安全保障の関連というのが面白いと感じた。今後もパンデミックは起こる可能性があるため気を付けなければならない。  |
| 西田    | 人類共通の敵＜国際政治の力学という部分                         | 世界中の人々が同じように感染症の被害に苦しんでいるのに、政治という要因によって世界的な感染症への対応が遅れてしまうのは問題であると考えたため、重要であると感じた。特に、ワクチンが開発されても良好な国際関係がなければ共有をしなかったり、独占をしたりすることで感染症の問題解決までの期間が異なっていたという部分が印象的であった。困っているという状況は一緒であるのに、結局は自分の国の利益のためだけに動いてしまうという様子は、問題であると感じた。   |
| 野田    | 日本は、審査の厳しさ等の理由だけをもって難民鎖国とするのは危険な考え方であるということ | この授業を受けるまで、確かに日本は難民鎖国であると思っていた。ニュースでも、ヨーロッパを中心とした国々は多くの難民申請を受け入れているのに対し、日本はその審査が厳しいというような話を聞いたからである。しかし、市民が思っている以上に、難民を受け入れることはさまざまな問題があるということを知り、グローバルな視点で問題解決に向けて取り組まなければいけないと改めて思った。  |
| 野田    | グローバルヘルスという概念                               | 現在は、世界を単一の相互依存関係にあるものとして捉える国際関係論が主流になっているが、その考え方がヘルスの問題にまで通用することにある種驚きをもった。そこには公的な性格を持つものと私的な性格を持つものがあり、それらを兼ね合わせた取り組み方が必要である。グローバル化が進展する世の中において、この国際関係論に基づいた考え方は、どのような点においても重要であると改めて思った。   |

(continued)

| 氏名 | Q1  | Q2   |
|----|---|--|
| 原田 | ヘルスの多様性について                                   | ヘルスの多様性には医学的要因と社会的要因の二つがあるという点が面白いと感じた。社会的要因の部分では病原体を防ぐためには、生活環境、栄養や知識の状態、労働条件や貧富の克服、是正までが必要であり今すぐにできることでは無いが重要なことであると感じた。WHO 憲章の全文では健康とは身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態であることであると述べられており、医学的要因における健康の定義とは異なっている部分が面白いと感じた。  |
| 藤井 | 国家の政策機能及び決定の脱領域化                              | 世界がグローバル化していくにつれて自国外で発生する自国に直結する問題が増加し、問題の規模が大きくなればなるほど、まずは自国内の対応に迫られるため、国家間での協力は後回しになっていく。このような動きは、世界を巻き込む IT 問題や環境問題が起こった時、つまり現代社会に特に生じやすく、国家間の連携・協力が必要なときほど連携・協力が進まないのではないかと思い印象に残ったため挙げた。そのような事態に対応できるよう国連などが機能すべきだが、国連の各国に対する拘束力が弱い現状では難しいと考えた。           |
| 藤田 | 公衆衛生における政治的対立について                             | 人類の健康を守ることを目的に組織された WHO であるが、運用資金に関しては、各国で寄付している金額が違うため、より多くの金額を寄付した国の発言権が優先されたり、他国が発言権の大きい国にゴマをするような状態になってしまう可能性がある。一人一人の人間が国や国際機関に頼りすぎてしまうと、自分の健康が政治的な事情に巻き込まれてしまい、危険にさらされてしまうかもしれない。そのため、自分の健康は自分で守るという基本的な考えは常に持ち続ける必要があると改めて感じたため、この部分が大切だと思った。           |
| 本間 | 感染症へのグローバルな連帯の欠如                              | パンデミックに対しては、世界各国が協力していくことで、素早く解決していくことができるが、アメリカがイギリスのように自国の利益を優先した場合には、日本社会は甚大な影響を受けると感じたため。  |
| 松本 | グローバルヘルスは国家間の枠組みでは解決できないことを背景に登場した概念であるということ。 | コロナは中国という一つの国で発生しその後世界中に広がったもので、まさに世界中を巻き込んで解決していかなければならないという状況にあったため、今の自分の生活にも関係のある言葉だと感じたから。   |
| 三島 | ヘルスの多義性                                       | 「ヘルス（健康）」という概念は、医学的側面と環境的側面の両方で多義的に解釈されます。医学的には、健康は「心身の活性度合と健全性によって測られる全身の状態」と定義され、身体的および精神的な健全性や疾病の有無を指します。一方、環境的側面では、気候変動や生態系の変化が人間の健康に直接的・間接的な影響を及ぼすことが指摘されており、持続可能な環境の維持が健康にとって重要であるとされています。これらを踏まえ、健康の維持・向上には、医療的アプローチだけでなく、環境保護や持続可能な社会の構築が不可欠であると考えました。 |

(continued)

| 氏名 | Q1           | Q2  |
|----|--------------|---|
| 吉岡 | コロナ流行時の各国の対応 | コロナウイルスが流行した時に私たちが注目したのは各国がどのように協力してこの危機を乗り換えるかではなく、どこの国で生まれた病気なのかいつになったらワクチンができるのかといった点が注目され各国同士での連携が求められることは少なかった。このようになる要因として WHO といった国際機関においても「政治的アリーナ」といわれるように国家の政治的主張や対立が発生しているように常に国同士の政治的問題がかかわってくるためだということが分かった。そうすると必然的にメディアも他国の負の部分を強調するようになる。そのため私たちは他国と共感するための情報を自ら探していく必要があると考えた。 |
| 渡邊 | 沖縄独立論について    | 沖縄は国土面積は約 0.6%であるが、米軍基地は全国の約 70.3%が集まっており、多くの問題を抱えているにもかかわらず、日本本土に住んでいる人たちは認識していないことは重要な問題なのではないかと考えたからである。負担が沖縄の社会や環境に与える影響は大きいが十分に理解されていないことで、沖縄の住民の本土への不信感に繋がったり、さらなる負担を抱えることになったりするのではないかと思った。  |